

ばんけい

教育ほんといっしょ

かわら版

こみち  
教育の小径 No.166

2022 August

8月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

とりはだ た  
鳥肌が立つ

寒さや恐怖、不快などに遭遇すると、皮膚にぶつぶつができることから、ぞっとする感じを強調するときにあります。本来感動した場合には使いません。

## 教師も体と心の健康管理を

- 教師は「体が資本」といわれます。日ごろから体調管理に気を遣い、万一不調を感じたときには、早期に相談・治療を受けましょう。
- 多くの教師が「心の病」で悩んでいます。原因はさまざまです。時には仕事のことを忘れ、趣味など好きなことに取り組むことも大切です。

今月の記念日

8月15日

終戦記念日

昭和20年(1945年)のこの日、第二次世界大戦が終結しました。「戦没者を追悼し平和を祈念する日」とされています。

## 求められる普段の体調管理

教師は子どもたちの健康に関心をもっていても、自分のことになると、それほど気にしないことがあります。健康管理は教師自身にも求められます。「教師の仕事は体力勝負だ」といわれます。「体が資本」です。教師は立った状態で指導することが多く、体を動かすことの多い職種です。知らず知らずのうちに、体力が消耗し、体調に変化を来すこともあります。

日ごろから、バランスのある栄養と適量のカロリーを補給することはもとより、適度の運動をすること、それに十分な睡眠をとることが大切です。規則正しい生活を送ることによって、資本である大切な体をいつまでも健康な状態で維持することができます。普段の体調管理が第一です。

年齢を重ねていくと、体力が徐々に低下し、体のあちこちに変調が生じてきます。気持ちと体力にズレが生まれます。気持ちは若いと思っても、体が思うように付いていかない経験をした人もいます。久しぶりにサッカーやバレーボールなどに取り組んで、つい無理をしてアキレス腱を切ってしまったという話はよく聞きます。体力を過信することは禁物です。

定期的実施される健康診断の結果から自分の健康状態の変化を把握し、異常が察知されたときには、早期に専門医に相談したり診察を受けたりします。早期の発見と治療が重要です。

健康管理は一人一人の教師が行うことが基本です。あわせて、管理職や養護教諭は個人のプライバシーに十分配慮しつつ、自校の教職員の健康状態を観察・把握し、状況に応じて適切にアドバイスすることが求められます。

## ストレスによる「心の病」

文部科学省の最近の調査によると、令和元年度に「心の病」で休職した公立学校の教員は5,478人で、そのうち小学校の教員が2,647人でした。年齢的には教職経験を積んでいる50歳代で増加しています。

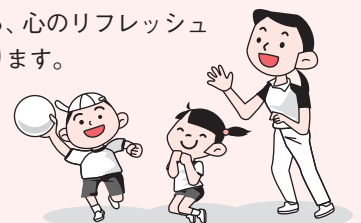
学校に勤務するために、近くの駅のホームまで行ったのですが、どうしても電車に乗ることができなかったという話を聞いたことがあります。ホームから学校に休暇をとる旨、電話を入れたそうです。そうした状況がたびたび続き、そのうち自宅から出ることができなくなったといいます。「心の病」に襲われ、日々悩み苦しんでいる状況を察することができます。

心が病む原因の多くは、仕事うま

く処理できない。子どもたちの指導が思うようにいかない。業務が増え、残業が多い。保護者から理不尽なことを要求されるなど、仕事や職場が関係しています。家庭や家族など個人に原因があることは少ないようです。

「心の病」にならないようにすることも健康管理のひとつです。心のことは第三者には見えにくいものです。一人でけっして悩まず、同僚や管理職、家族など身近な人に早期に相談することが重要です。周囲の人が気づいたときには声をかけ、悩みを引き出しながら、共に解決策を考えることも考えられます。状況によっては臨床心理士など専門医の診断を受け、専門的な治療に入ることも必要です。早期の措置が早期の改善につながります。

学校や教育の分野以外のことに関心をもつことで気がまぎれます。いつも仕事のことだけを考えると、気が滅入ってしまうことがあります。スポーツやハイキング、読書など趣味に没頭するのもよいでしょう。一時的であっても、仕事を忘れることができずから、心のリフレッシュになります。



## 子どもの言葉

### 「先生！わかりません」

教師は子どもたちに学習状況を確認するために、「わかりましたか」「できるようになりましたか」などと問うことがあります。これは授業の重要なチェックポイントです。授業を参観していると、こうした類の問いかけをしている場面にたびたび出会います。

ある授業でのことです。教師が子どもたちに「いいですか」と聞きました。すると、子どもたちからは「いいです」と、オウム返しという言葉が返ってきました。子どもたちの反応を見てみると、顔を上から下に振る仕草が見られました。ところが、こうした言葉やふるまいが条件反射のように見受けられました。顔は左右に振るよりも、上から下に振る方がたやすいようです。

ほかの授業でのことです。教師が「わかりましたか」と聞きました。大勢の子どもたちは「ハイ」と返答したのですが、ある子どもだけが「わかりません」と答えたのです。周囲の空気から、それがとても勇気のいる一言であったことが察知できました。

この子どもは自分に正直に答えたのでしょう。また、わかるようになりたいという強い欲求があったことがうかがえます。心のなかで、この子どもに拍手を送りました。

教師は子どもから意に反した発言が出されると一瞬戸惑います。授業がストップしてしまい、先に進めなくなります。ところが、「わかりません」の一言は教師の指導を見なおし、改善するきっかけになります。こうした場面に出会えたということはむしろ歓迎すべきことかもしれません。授業者を困らせる発言、戸惑わせる発言こそ、子どもの本心（本音）の表れではないでしょうか。

## 教育の動向

### デジタル教科書への移行問題

新型コロナウイルスの感染拡大によってオンライン授業が提唱され、「GIGAスクール構想」として打ち出された1人1台端末が予定を前倒して整備されてきました。こうした情報環境の変化に伴って浮上してきたのが、教科書のデジタル化の問題です。

デジタル教科書に関して、『読売新聞』（令和4年4月17日付）に全国の小中学校を対象に実施した調査結果が報道されていました。「紙とデジタルの教科書をどのように活用すべきだと思うか」という質問について、「紙の教科書をメインにデジタル教科書を

補助的に使用する」が51.6%で最も多く、次いで「紙とデジタルを同じくらい使用する」が19.4%、「デジタル教科書をメインに紙の教科書を補助的に使用する」が13.6%でした。「デジタル教科書のみ使用する」はわずか3.0%でした。

また、『読売新聞』はフランス国立衛生医学研究所研究員のミシェル・デミュルジェ氏の「紙の本を読むと脳内で、内容の地図とも言えるイメージマップが構築される。紙の本には空間的な統一性があり、端末で読むよりも脳の中で内容をイメージしやすい。」という見解を紹介していました（令和4年5月17日付）。

デジタル教科書への移行に当たっては検討すべき課題が多いようです。

## 北俊夫の「実践と研究」の足あと 34

### 社会科から教育課程研究へ

岐阜大学に異動して、研究対象が社会科から教育課程全般に大きく変わりました。それまでは職務の範囲が社会科や総合的な学習でした。それが外されたこともあります。それ以上に、社会科という教科の枠で考えるだけでは、よりよい学校はつくられないと考えるようになったからです。このことはすべての教師が学校という組織の一員としての自覚をもって、すべての教師が学校運営に参加・参画することの大切さを意味していました。

学習指導要領の枠組みを見ると、各教科等の冒頭に、「総則」が位置付けられています。社会科の授業づくりを進めるとき、社会科の学習指導要領はもとより、総則の趣旨を踏まえることが求められています。しかし、多く

の実践では、このことがほとんど意識されていないように思われました。

各教師が自校の教育課程を意識し、特色ある社会科を実践するとは、例えば地域の素材や人材、施設などの教育資源を活用することです。また、学習成果を生活の改善や地域の課題解決に生かす社会科を展開することです。社会科は地域に開かれた学校運営に貢献する教科だと考えていました。

PDCAサイクルの重要性から、研究の対象は学習評価、授業評価、学校評価にも広がっていきました。キーワードは、「評価で子どもを育てる」「評価で授業を変える」「評価で学校を創る」でした。かつて学校で「関心・態度」の評価研究に取り組んだ経験が生かされました。一方、先生方になぜ子どもの学習状況を評価するのか。評価の目的は何かについて納得してもらうまでに時間がかかりました。

## INFORMATION

### ぶんけいの英語テスト

テスト紙面で「聞く」「読む」「書く」「話す」を評価  
パフォーマンステスト



サンプル動画を  
ご覧いただけます



準備不要 /  
すぐに実施できる  
てびき付き

より充実 /  
「やり取り」に加え  
「発表」も評価



## 編集後記

コロナ禍での休校、分散登校などで、子どもたちは学校給食を食べる機会が減ったことで、カルシウムや鉄分が不足がちになっているそうです。成長期の子どもたちにとって学校給食がとても重要な要素であったことを改めて感じました。(F記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2022年8月1日